

# 16期7号 医療安全ニュース

今回のテーマ:沈黙がつくるリスク  
～声を掛け合える文化で、医療安全を守る～



## 「言わなかった」その一瞬が

医療現場では多くの職種が関わり、日々たくさんの情報が行き交っています。その中で「言わなくても気づいているはず」「忙しそうだから、やめておこう」「小さいことだから大丈夫」と“言わない選択”をしてしまうことがあります。



## 沈黙が生む、小さなズレ

インシデントの背景には、本来共有されるべき小さな情報が伝わらなかったというケースが少なくありません。

患者の小さな変化、指示の受け入れ方の違い、職種間の思い込み等、こういった共有不足のずれが、後のリスクに繋がる場合があります。

例えば・・・

「医師なら確認しているはず」と思い、気になった検査画像について声を掛けなかった。これは特定の職種に限らず、誰にでも起こり得る“思い込み”の一例です。



## 声を出していいと思える現場へ

声を出していいと思える現場には、心理的安全性が欠かせません。心理的安全性が高い状態とは、立場や職種に関係なく気付いたことや違和感を安心して伝えられる状態を指します。

その声を否定せずに受け止め、感謝を言葉にすることで、発言への不安は少しずつ和らぎます。

こうした日々の関わり積み重ねが「言っても大丈夫」という信頼を生み、小さな気づきが共有されやすくなります。

## 一言を大切に

小さな気づきや違和感を伝える文化が医療安全には重要となります。

沈黙ではなく「対話」をしましょう。

あなたの「一言」が患者さんの安全とチームの安全を守ります。



今月の一言

言おうかな やっぱり言おう それ正解

この川柳はAIによって作成されたものです